

暗やみの声

夕ぐれどきになりました。お日さまもお別れです。畑と草原は、金いろの光につつまれました。キャベツ畑では、小さな虫たちが遊んでいます。大空では、ひばりが夕べの歌をうたっています。どこかでコオロギの鳴く声も。

トリビツクリ・トーマスは、うとうとしていました。なんだか眠たくて、何を考えるでもなく、ぼんやりとしていました。するとそのとき、がさごそと、背中（せなか）のほうで何やらもの音がします。トーマスは目が覚めました。

（何の音だろう）トーマスは考えこみました。（風くんなのかね。それとも子どもたちが、わたしに会いに来てくれたのか）いえいえ、そうではありません。トリビツクリ・トーマスの予想（よそ）はずれでした。

がさごそと、もの音のするほうから、二つの声が聞こえてきました。何やらささやき声をかわしています。トーマスのぜんぜん聞いたことのない声でした。すぐにトーマスは気がつきました。（これは、人の声ではないね——。それに鳥の声でもない）

ひそひそと、そこでささやいているのはだれ？ トーマスはわかりません。ただじっと耳をすませて、その二人がしゃべるのを聞いているしかありません。

「気をつけて！」はじめにこう聞こえました。「あそこに人が立ってる。見えるでしょう」

